

着装によって生起する多面的感情状態の構造
 (第5報)感情状態因子とクラスター

羽衣学園短大 ○喜多エイ子 梅花短大 家本 修
 奈良女大生活環境 中川早苗 鳴門教育大 藤原康晴

目的 前報と同じく着装によって生起する感情状態測定尺度の作成を目的としている。本報では、前報で得られた5場面すべてを含む評定結果について因子分析およびクラスター分析を行い、感情状態の構造を比較検討した。

方法 まず、肯定的感情因子と否定的感情因子が抽出されるかを確認する。次に、因子負荷量をもとに因子の内容を検討し、この2つの因子の下位構造を明らかにする。クラスター分析では、まず、感情状態測定項目95個を変数として項目間のユークリッド距離行列を算出し、ワード法を用いて行った。さらに肯定的感情状態測定項目のみを変数とした場合、否定的感情状態測定項目のみを変数とした場合に分け、同様のクラスター分析を行い、それぞれ基本クラスターを抽出し、その階層構造を求める。

結果 感情状態測定項目95個で因子分析を行った結果、否定的感情状態測定項目の大部分が第1因子となり、肯定的感情状態測定項目は2～5の因子に分かれて出現した。肯定的感情状態測定項目のみ、あるいは否定的感情状態測定項目のみを用いた因子分析では、いずれも5因子が抽出され感情状態の下位構造が表出した。感情状態測定項目95個でクラスター分析を行った結果、抽出された各クラスターは最終段階で肯定的感情状態と否定的感情状態の2クラスターに分かれた。肯定的感情状態測定項目のみを用いたクラスター分析では、因子分析において抽出された因子数とほぼ同じクラスターとなるように距離係数を定め、得られたクラスターと因子を比較検討した。否定的感情状態測定項目のみを用いたクラスター分析でも同様の検討を行った。